

---

# G20

野球人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

G20

### 【著者名】

Z5465Z

### 【作者名】

野球人

### 【あらすじ】

ごく普通の高校生活を送っていたはずの俺、中野修司なかのじゅうじはある事件をきっかけにどこか分からぬ異世界に送り込まれた。

元の世界にもどり、あの事件の真相を探るべく冒険を始める。

## 登場人物紹介（前半）

中野修司・・・本作の主人公。ある事件をきっかけに異世界、『ロカード』に飛ばされてしまう。男

エルニ・レイナ・・・G10に所属。陛下とは・・・？女

ナルノ・シュターゼン（陛下）・・・『ロカード』の首都『カディフ』を治める王族。年齢13。女

カンデ・ローナ・・・G2に所属。G2でも最下位の実力。女

レット・セイカ・・・G20に所属。G20で第2位。女

インダ・ドル・・・G14に所属。女性に対してキザである。男

まだまだ出ると思いますが、メインは大体こんな感じです。



・・・もつ朝・・・か?  
「ん・・・・」

頭がまだボーとしている。寝起き特有の何も頭にない状態が続く・・・

・  
「つてあれ?」

「こ、ここは?俺はなぜこんなことに?」

「え?え・・・?」

あたりを見回してみると、とても豪華な部屋にいることがわかった。

「あれ?確か俺は・・・」

今、俺は危機的状況に陥っている・・・とでも言ひのだろう。

「ちょつ!待てって!」

目の前にはナイフを手に持ち今にも刺してきそうな覆面男がいる。

「か、返せ!」

覆面男はさつきからこればかりだ。なんだ返せって・・・

「だ、だからなにをだ!とりあえず落ち着け!」

「お前のせいで俺の息子は死んだんだ!」

はい!?全く意味がわからない!と、とりあえず現状を確認だ!

・学校から帰つてきたならなぜか家に覆面男がいた。

・俺を見るなりこうなつた。

全然わからない!もちろん俺は覆面男の息子なんて知らないし、身近にいた人が死んだなんて聞いてない。

「う、うわつ!」

ズキッとわき腹に痛みが走る。さ、刺された・・・のか?意識が・・

。

つてははずだつた。なぜこんなとこにこるんだ?

「起きましたか?」

「つ、うわ!」

だ、だれ!?

「あ・・・。すいません・・・。」

いきなり声をかけられたと思つたら今度は謝られたぞ?なんだ?

「私の名前はエルニ・レイナ。エルナとお呼びください。」

「あ・・・・エルナさん?つてどこの人?」

「ど、ど、ど、どこの国ですが?」

「じ、じ、じ、じだよと嘗おつとしたひ・・・。」

「あなたのお名前は?」

あ、ああそいやまだだつたな。

「俺の名前は中野修司。なかのしゅうじつてか」」」」」

「」」」」は王族付属の寮G-1です

「・・・G-1?」

聞き慣れない言葉に聞き返す。

「はこ。詳しい話は王宮に行つてからあると申つので・・・。」

なるほど。王宮とやらに行つたら事情がわかるのが。

「わかつた。じゃあさつそく行くよ」

「はい。では一緒に私が同行させていただきます。」

王宮への行き道。

「とにかく俺はなんでこんなところにいるんだ?」

ほとんど記憶が無いので半ば独り言のよう言つて・・・。

「あ・・・・。」」」から東のほうにある森の奥で倒れておつましたよ。」

なんでもそんな感じ……とか考えている内に、ついこうと  
こうに着いた。

「へ、うわ～……」

中はとんでもなく豪華だった。俺が寝ていた部屋。確かに……G1  
だけ? もけつ、じつ豪華だつたけれどあれとは比べ物にならない。

「こちらですよ」

「お、おう」

そして一際大きく、キレイな扉の前に来た。

「さあ、これから陛下にお会いしますよ」

## G 1 (後書き)

新しい小説を投稿させていただきました。

今回は戦闘物を書こうと思いこのG 20を書きました。少しでも興味を持つていただいた方、展開のペースは遅いと思いますが学生なのでそこは見逃してください。

下手だと思いますがご指摘、感想をよろしくお願いします。

ガチャリ・・・と思い扉が開いた。開けたのではなく開いたのだ。

「・・・」

少し戸惑いつつも奥に進む。まあ隣にはエルナさんも居る事だし。  
「よくきたな」

少し幼さを残し、それでいて凛とした声が聞こえてきた。あれが陛下・・・? ってどう見ても12・3歳の少女なんだが

「陛下。この方が例の・・・」

「うむ」

例のつて・・・あ、俺のことか。

「名前は・・・?」

「あ、えっと・・・中野修司です・・・」

「ナカノ? 聞かない名前だな?」

まあ日本名ですからね。

「じゃあ、さつそくだがエルナ」

「は、はい」

「彼をG20に入寮させてくれ

何? G20つて? さつきのはG1だつたよな・・・?」

「えつ! ? い、いきなりですか! ?」

エルナは驚いているがこっちにはさっぱりだ。

「わかつたか・・・?」

「はい・・・」

（帰り道）

「はあ・・・」

エルナさんは帰り道ずっとため息ばかりついている。

「ど、どうした・・・？」

さすがに心配になつたので聞いてみた。

「だつてあなた！G20ですよ！？」

「え・・・だからG20って何？」

「ほ、本氣で言つてるんですか！？」

「本氣だよ。俺はいつでも本氣だよ。

「うん。一応・・・」

「あなた、どこ出身なんですか？」

「日本だよ。三重県出身」

「二ホン？ミハ？聞いたことありませんね・・・」

え・・・。マジかこの人。っていうかさ・・・

「あの、ijiはどこの？陛下さんは何にも教えてくれなかつたけど」

「あ、えつといijiは『ロカード』、その中の首都『カドイフ』です。

「それこそ聞いたことないぞ・・・？ついijiとはijiは・・・い、異世界つてこと？」

「え・・・。それつて」

異世界つてこと？と言いかけたとき

「あつ！あそこ見えるのがG20ですよ」

で、でかい・・・。声が出ないほどの衝撃だった。

## 入寮（後書き）

さつやく2話目を投稿させていただきました。  
できるときに投稿していくのをこのようにしてお願いします。

では、「指摘」、「感想お待ちしております。

## レット・セイカ

田の辺たりにした『G20』。それを行つた王宮ほどの大きさがある。

「ああ、入りましょうか」

エルナの声には少しばかり緊張が混じつっていた。

本日2回田の重いドアを開ける。（てか、勝手に開いた。）

「なあ、なんでこのドアって勝手に開くんだ？」

ずっと思つていたことを聞いてみた。ちなみに帰り道、エルナに敬語で無くても良い。と言わされたので、それからはタメ口だ。

「なんでつて……。それは、『ワンス』ですよ……？」

「わ、ワンス？」

聞き慣れないその単語を言い返す。

「はい。手を使わずにドアを開けたり、物を動かしたりすることですよ？」

うん？ よつするに魔法……？ いやいや、魔法なんてこの世にあるわけ……。でもここは異世界らしいし……。なら有りなのか？ いやしかし……。

「あつ！ セイカさん……」

イロイロ考えていると田の前に一人の少女がいた。碧眼で金髪だ。みるからに日本人ではない。

「あら。エルナさん。そちらの方は？」

セイカと呼ばれた少女は俺の方を見て言ひ。

「あ、こちらはナカノ、シュウジさん。」

「ああ、例の……」

なんだよ例のつて。

「シュウジさん。こちらはレット・セイカさん。」



## レット・セイカ（後書き）

今回は微妙なところで終わってしまい申し訳ありません。

新キャラの説明もできなく、都合により今話は終わってしまいま  
した。

次の話でまたちゃんと説明していくのでよろしくお願いします。

## G20（説明）

「はじめまして」

軽くあいさつを交わす。すると

「ではさつそくこのG20を説明しますわ」

会つたばかりだというのにセイカはこのわけのわからぬく、ビでかい建物について教えてくれるそうだ。

「では、まずここではG2からG20までの格付けがされてます。

」  
お、さつそくの説明だ。よく聞いておこう。

「一番下がG2、上がG20となります。」

「へへ、あれ？ でもなんでG1が無いんだ？」

気になつたので聞いてみると

「G1はここの中学校の教師なんです」

「えつ？ ここ学校なの？」

初めて知つたぞ？ そんなこと。

「それはですね・・・

「説明中～

とりあえずここいうことらしい。

ここはカドイフにある学校で『セント高校』。実際は違うのだが俺が勝手に、日本名をつけた。そしてG20はその学校でもトップクラスのやつらがいる。トップクラスというのは勉強でも、スポーツでもなくさつき教えてもらつた『ワーンス』が強力な人。つまりあの魔法が強いほど学校でも優等生ということらしい。

で、この俺こと中野修司は陛下の命令でこのG20に編入されたつてことらしい。

学校 자체は「この寮から約100Mほど」の距離でとても近い。しかし「G20を見て、でかいと思ったがこれはG20だけではなくG2からの全員が入っている。つまりG2からG20までのおよそ300人ほどがこの寮にこもるらしい。」

（でも部屋割りはちゃんとクラスごとに分かれているんだからややこしい・・・）  
G2などは、たんなる格付けなのでG2からG20までのよそ300人ほどがこの寮にこもるらしい。

「まあ、G20とかはたんなる成績だと思つていてください」

「はあ・・・」

「うーん・・・。わざと説明してもらつたけどわかりにくいな・・・。まあその内慣れるだろ。」

「そして私はG20の中でも第2位の実力ですわ！」

「へ、へえ～、すういな」

やや声を大きくしてしゃべるセイカに少し驚く。

「で、では修司さん。部屋にご案内します」

「お、おう」

エルナも少しうるさいしていたようだ。

「じゃあ、いろいろ教えてくれてありがとうございます」

「お安い御用ですわ」

セイカに例を言つて血瘤くと案内してもうひ。

## G20（説明）（後書き）

今日は説明があくまですこません。でもやつぱり説明していかないとわからなくなるだろ（う）。自分も（当たり前ですが・・・）少しづつ、ゆっくりだと思いますが進めていくのでよひしくお願ひします。

「リリが修司さんのお部屋になります」

「ほお・・・」

思わずこんな声が出てしまつ。俺はなぜだか知らんけどG20に格付けされたから部屋も豪華なんだろうか？

「ど、言つてもベットとかしか無いんだな」

「ど、言いますと?」

「ああ、別に不満では無いんだが、テレビとかパソコンとかは無いのかなつて・・・」

こんな異世界に来てまでもそんな心配しかできない俺は自分自身に少々あきれるが・・・

「テレビ?ぱそこん?ああ、東洋の物ですか?」

「まあ、そう、じいな・・・」

自室にくる途中、Hルナに日本の話をしたんだが、うまく伝わらなくけつあよくななかんじになつた。

「あの、また明日、王宮に行かなければならないので今田はゆっくりしていて下やー」

「へ?また行くのか?」

正直ああいうとこ、苦手なんだよなあ・・・

「ええ。まあ、状況があれですし・・・」

「状況?」

「い、いや。一いちの話ですの。では夕食の時間にはまた呼びに来ますね」

と言つてHルナは出て行つた。まあ夕食までのんびりしてゐるか。

「・・・さん。修司さん！」

「ん・・・？」

「起きてくださいー。夕食ですよ？」

「ああ、寝てしまつたらしい。でもどこか知らないこといろいろでも寝れる俺つて、適応力すごいね。

「食堂に案内しますので」

「わかった。行くか

「これまた食堂は広いのなんの。つて300人程にいるつて行つてたからあたりまえか。

「では、修司さんは裏方へ回つてG1の人たちへ挨拶に行つてください」

「え！ 確かG1つて先生がいるところだよな・・・？」

「はい、そうですけど・・・？」

「ん？ このエルナの疑問顔。どうかで見たことあるような・・・。あれか既視感つてやつか。

「こつちの職員室みたいなもんだよな・・・。なんとなくイヤだな日本にいた時のことを思い出し、しぶい顔になる。

「そんなこと言わずに！ 別に悪いことして行く訳ではないですしそりやそうだ。ここにきてまだ半日ばかりしか経つてないのに、呼び出しなんてどんだけ大物なんだよ。

「ここからG1までは一本道なのでそこ第一ゲートから行けば着きますよ」

「わかった。ありがとな

エルナに礼を言つてG1へと向かう。ちなみに俺が最初寝てたところは、G1でも保健室みたいなところらしい。

「つていうか・・・。やっぱ行くのイヤだよな。職員室・・・」

日本での行いが頭を過ぎる。世話になつたよな。よく・・・。

## 血潮にて（後書き）

更新が不定期でいいません。少しずつG20の世界がわかつて来た  
でしょうか？

バトルシーンは都合によりまだ出せずにすいません・・・  
あ、頭の中ではちゃんとできてるんですよー？ww

たぶん説明がわかりにくいくらいだと思いますので  
わからないところは感想に書いていただくな  
メッセージを送ってもらつたら説明をしますので。  
これからもよろしくお願いします！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5465z/>

---

G20

2011年12月25日17時55分発行